

学校法人静岡理工科大学 星陵中学校

先輩の姿に憧れて——第2期生が入学！ 「世界基準の学力」を具現化する挑戦



平成23年春、富士地区（富士市・富士宮市）初の中高一貫校として開校。グローバル・リーダーに必要な能力を、6年間かけて育成できる体制が整った星陵中学校。「知育・徳育・体育・美育」を柱とする6年制一貫教育により、OECDが提示する世界基準の「新しい学力」の獲得を目指している。来るべき社会の「風を感じ、風を掴み、風を起こす力」を追い求め、教員と第1期生がともに歩んだ1年間に迫る。

平成23年、中学部スタート 第1期生としての誇り

壮麗な富士山を眼前に望む高台に立つ星陵中学校・高等学校。昭和50年創立の高等学校は、近年、東大、京大、国立大医学部、早慶上理、MARUCHへの合格者を輩出し、地域屈指の進学校としての評価を固めている。

昨年、スタイリッシュな新校舎が完成。太陽光発電を設置、自然環境に配慮した、次世代型の教育空間だ。この最先端の学び舎を得て、星陵中学校の新たな歴史が始まった。「私たちは皆さんを心待ちにしています」と坪井正明校長の祝辞で迎えられた1期生は地元小学校でもトップクラスの子どもたちだ。県内最高の受験倍率を勝ち抜いた彼らの心身の成長を、橋本正学年主任は1年間見守り続けてきた。

「本校が目指すのは、『セルフリーダーシップ（自己教育力）を備えた心豊かで調和のとれた人間、グローバル・リーダーの育成です。その命題を掲げる学校の1期生としての誇りが、生徒の心に育っていることを実感する1年間でした。外部の全国模試を初受験する際、彼らが見ているのは『全国』における自分の位置です。二度目の模試では、成績中下位層の生徒が『自分たちが頑張らないと』と奮起し、平均偏差値を底上げしました。数値もですが、モチベーションと潜在能力の高さは、嬉しい驚きでした』

しかし橋本学年主任は、「本当に求めているのは、学科の点数のような



61人が入学。新入生代表から「誓いの言葉」として、これから始まる中・高6ヵ年への強い決意が語られた

当日前、教室に行くと、生徒たちはすでにグラウンドに出ていて、備品準備やライン引きなど全員で動いていた。会の進行・表彰・最後の片付けまで、完璧にやり遂げました」

今春、初めて後輩を迎える第1期生。これからも常に先輩を切り、学校を牽引していく存在として確かな自信を身に付けたことは、想像に難くない。

現れた。「伸びこほし」「落ちこほれ」を出さないという教員の熱意の成果もさることながら、橋本学年主任は、もうひとつの理由をこう付け加える。

「βクラスの意欲喪失が心配でしたが、生徒たちは『習熟度別』が、生徒たちは『習熟度別』でβクラスに配属されている。αとβの境界の生徒は『私にはβの先生の授業のほうが理解しやすい』と、自分で選択している。教員側が点数で分ける習熟度別授業とは違う次元で、生徒たちは自らの学び方をデザインしているんです」

「自律的な行動力」の他、キー・コンピテンシーには「プレゼンテーション能力」さらには「大きな展望の中で活動する力」が挙げられている。

星陵の学校生活は密度が高い。朝アスト・朝読書から始まる7時間授業。部活動も活発で、最終スクールバスは19時発。橋本学年主任は「時間に制約があるので、生徒たちは時間の使い方を工夫する術を学んでいます」と語る。

採択を受けて、星陵中は「富士山と共に生きる植物」の講座を通年で開講した。富士常葉大学の教授とともにフィールドワークを実施し、グループで論文をまとめた製本。さらに保護者などを招いた成果発表会でも、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行った。これらの作業を生徒は自主的に行うが、真に目指すレベルはその先にある。富士の人工林調査を足がかりに、伐採するか否か、跡地の活用方法は、費用は、課題は…と思考を展開する「探究力」だ。実際、風力発電所を建設する案から、エネルギー問題まで踏み込んで考察するグループも現れたという。

国数理は標準より35時間増、英語は70時間増。3年間で標準より52.5時間多い授業数を確保し、放課後は個別指導も行う。英数は検定外教科書を使用し、1年次は習熟度別「α」「β」の2クラス体制（2年次は3クラス）だ。2月模試の結果では、1期生には成績下位層を占める生徒が少ない傾向が

「知育・徳育・体育・美育」の4つのプログラムの中でも「美育」は他校



校長 坪井 正明

「星陵に行って学びたい」
明確な意志を持つ第2期生

平成24年1月、第2期生の入試が実施された。下村博寿入試広報課長は初

朝読書では良書を知恵の源泉として豊かな心を育てる



探究学習をテーマとしてグループで調べ学習を総合的に進めようとする

とは違う切り口を持つ。芸術から科学まで「本物」に触れることに重きを置くほど、「観て終わり」にはしない。生徒たちは1年次に「静岡県立美術館」で写生を行った。橋本学年主任は言う。「芸術家を目指すわけではなく、全教科の『観察力』につながるんです。『本物』が題材ですから、機会が増えるほど目が肥え、物事の本質を見抜く力が養われる。頭が柔らかい時期で興味関心も高いので、心動かされたモノです。すべての教科学習の質のレベルアップに結びつくと考えています」

年度とは違う手応えを掴んだという。「2期生は、『星陵で学びたい』と心から願ひ、勉強を頑張ってきた子どもたちばかり。嬉しい限りです。初年度との大きな違いは、在校生の笑顔や、きちんと成長している姿を実際に見てもらったこと。星陵の中身を確かした上で選んでいただいたことですね」

昨年も盛況を呈した学校説明会だが、今年度はさらに熱い視線を集めそう。橋本学年主任は、「理想論だけでなく、データなどを伝えられる時が、ようやくやって来ました」と語る。星陵中学校が求める生徒像を伺ってみた。

「小学5、6年生の基礎基本をしっかり復習してほしい。そしていろいろな事象に興味関心を持つ意欲を持ってほしい。『じゃあ君はどうするの？』の問いかけに対して、知識を活用しながらじっくり考えて、自分の活用法を見出す力は、星陵に入学してからも、いろんな場面で求められる能力です」

星陵中学校が体現する「新しい学力」へのこだわりは、近い将来、教育界にも大きなうねりを起こしそうだ。

●データ

校長：坪井 正明
住所：〒418-0035 静岡県富士宮市 星山1068
電話：0544-24-4811
交通：富士・富士宮周辺で全21ルートスクールバスを運行
生徒数：122名（1期生・2期生）
ホームページ：http://www.starhill.ed.jp